

インストールガイド

PowerChute Business Edition v10.0.5

990-1805L-018

発行日：2022年05月

Schneider Electric IT Corporation 免責事項

Schneider Electric IT Corporation は、本マニュアルに記載される情報に関し、正式なものであること、誤記がないこと、または完全であることを保証しません。本マニュアルは、施設固有の詳細な運用開発プランに取って代わるものではありません。したがって、Schneider Electric IT Corporation は、損傷、法律違反、不適切なインストール、システム障害、または本マニュアルを使用した結果生じるその他の問題に関し、一切の賠償責任を負いません。

本マニュアルに記載される情報は、現状のまま提供され、データセンターの設計および構造を評価することを唯一の目的として用意されています。本マニュアルは、Schneider Electric IT Corporation が誠実に編集したものです。ただし、本マニュアルに記載される情報の完全性または正確性に関し、明示または黙示を問わず、いかなる意見表明も保証もされません。

Schneider Electric IT Corporation 本社、または Schneider Electric IT Corporation の親会社、関連会社もしくは子会社、またはその担当役員、担当取締役もしくは担当従業員 は、本マニュアルまたはその内容を使用したり、その使用に関連したり、あるいはそれを使用できなかつたりすることで生じる直接的、間接的、付随的、懲罰的、特別の、または偶発的損害（事業、契約、収益、データ、情報の喪失、または事業中断など）について、たとえ Schneider Electric がかかる損害の可能性を明示的に把握していた場合でも、一切の賠償責任を負いません。Schneider Electric IT Corporation は、予告なしにいつでも出版物またはそのフォーマットに関して内容を変更または更新する権利を留保します。

内容（ソフトウェア、音声、ビデオ、テキスト、および写真など）の著作権、知的財産権、およびその他すべての所有権は、Schneider Electric IT Corporation またはそのライセンサーに帰属します。内容の権利のうち、本文書で明示的に許諾していないすべての権利を留保します。いかなる権利も、本情報をアクセスする者にライセンス許諾せず、譲渡せず、ないしは一切の引き渡しを行うことはありません。

本マニュアルの全部または一部を再販売することは禁止されています。

目次

インストールの概要	1
プロダクトセンター	1
PowerChute Business Edition エージェント	1
オペレーティングシステムと UPS デバイス	2
サポートされている UPS の種類	2
システム、UPS、ケーブルの要件	2
インストールのシステム要件	3
UPS 通信ケーブルの要件	3
PowerChute エージェントのインストール	5
PowerChute Business Edition インストールの前に	5
異なるバージョンおよびコンポーネントの互換性	5
PowerChute Business Edition のアップグレード	6
ユーザー名と パスワード要件	6
IPv6 互換性	6
ノードの制限	7
Windows でのインストール	7
PowerChute Business Edition エージェント を Windows	
にインストールする	7
Windows エージェントのサイレントインストール	8
Windows 上での PowerChute エージェント の起動と停止	9
PowerChute Business Edition エージェントを Windows	
からアンインストールする	9
Windows Server 2012/2016/2019 Server Core : PowerChute	
のインストール / アンインストール	9
Linux でのインストール	10
PowerChute Business Edition エージェント を Linux	
にインストールする	10
Linux での PowerChute エージェントの起動と停止	12
ファイアウォールの背後にある PowerChute Business Edition	
エージェントへのアクセス	12
Linux での PowerChute Business Edition エージェントのア	

インストール	12
Linux 用のサンプルスクリプトの使用	12
無効化されたハードウェア アブストラクション レイヤ (HAL)	12
RPM パッケージの署名	12

シンプルシグナリング 14

サポートされる UPS デバイスおよびアクセサリ	14
シンプルシグナリングケーブル	14
スマートシグナリングケーブル	14
サポートされる構成	15
シンプルシグナリングで PowerChute Business Edition をインストールする	16
シャットダウン設定	17

PowerChute Business Edition エージェントインタフェースへのアクセス 19

トラブルシューティング 20

PowerChute Business Edition のインストール中に発生 するメッセージ	20
Linux のインストールに関する問題	22
Windows でアンインストール時に発生する可能性のある問題	22
通信のヘルプ、UPS の自動検出および手動検出のトラブ ルシューティング	22
Windows での UPS 通信の確認	23
Windows で USB ケーブル接続なしでのインストール	24
予期しないシャットダウンと通信の喪失	24
スタンバイモードでエージェントが一時的に使用できない	24
スタンバイは Windows でのスケジュールされたシャット ダウンを延期	24
インストール時に Bluetooth ポートがフリーズする	25
エージェントのインストール時にエラーメッセージ "OpenService が失敗しました " が表示される	25
オペレーティングシステムの日付と時刻を変更する際の問題	25
インストールまたはアップグレード後の UPS の変更	25
スケジュールされたシャットダウンの後に UPS の電源が オンにならない	25

インストールの概要

このインストールガイドは、PowerChute Business Edition（PowerChute）の概要を紹介し、製品の説明、インストール手順、およびさまざまなトラブルシューティングの解決方法について説明します。

以下を参照してください。

- [PowerChute Business Edition エージェント](#)
- [オペレーティングシステムと UPS デバイス](#)
- [システム、UPS、ケーブルの要件](#)
- [PowerChute エージェントのインストール](#)
- [トラブルシューティング](#)



重要：

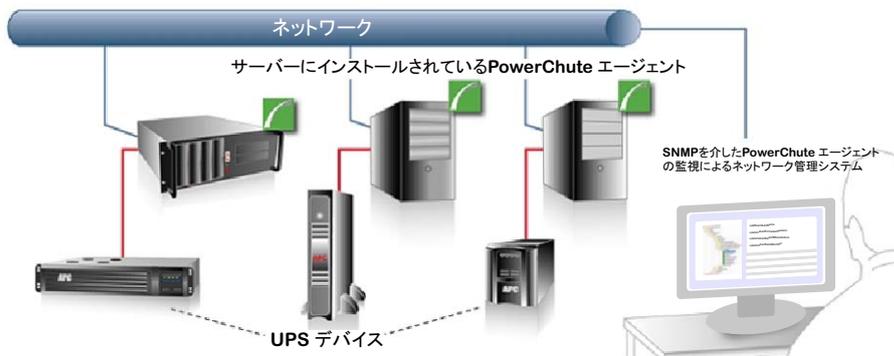
PowerChute Business Edition をインストールおよび設定した後は、本稼働環境で使用を開始する前に設定をテストすることを強くお勧めします。

プロダクトセンター

PowerChute Business Edition [製品センター](#) ページには、最新の有用な情報へのリンクが多数あります。

PowerChute Business Edition エージェント

Smart-UPSデバイスを備えたPowerChute エージェントはサーバーを保護します



エージェントは、UPS のステータス監視機能を提供し、停電が長期間継続した場合に UPS に接続されたサーバーのシステムシャットダウン機能を提供します。詳細については、「[オペレーティングシステムと UPS デバイス](#)」を参照してください。

このエージェントは、[サポートされる UPS 機器およびアクセサリ](#)に記載されている UPS デバイスに直接接続されている各コンピュータ 対してインストールする必要があります。

ネットワーク管理システム（NMS）を使用して、SNMP 経由または [EcoStruxure IT™](#) を介して PowerChute エージェントを監視する事も可能です。

オペレーティングシステムと UPS デバイス

PowerChute エージェントの設定は、オペレーティングシステムと Smart-UPS デバイスによって異なります。

- Windows オペレーティングシステムの場合は、[Windows でのインストール](#)を参照してください。
- Linux オペレーティングシステムの場合は、[Linux でのインストール](#)を参照してください。
- 自動検出が失敗した場合、UPS が接続されていない場合、または手動インストールを選択した場合は、手動インストールが行われます。[サポートされている UPS の種類と PowerChute エージェントのインストール](#)を参照してください。
- UPS を **Interface Expander 2 カード (AP9624)** または **Share-UPS (AP9207)** を使用して 1 台の UPS に複数のサーバーを接続している場合には、シンプルシグナリングを使用してカード / Share-UPS に接続されたデバイスを実行させている PowerChute エージェントを設定する必要があります。詳細については、「[シンプルシグナリング](#)」を参照してください。

サポートされている UPS の種類

手動インストールでは、UPS モデルのリストから UPS を選択するよう求められます。

1. 表示されるリストから UPS のモデルを選択してください。UPS のモデルは、UPS の背面にある印刷されたラベルに記載されています。
2. UPS モデルのプレフィックス (SMT 、 SMX など) がドロップダウンリストにない場合は、以下の定義を参照して UPS モデルの **タイプ** を検索してください：

– タイプ A

Smart-UPS (SMT/SMX/SMC モデル)、および Smart-UPS RT (SRT/SURTD/SRTL モデル)

– タイプ B

プレフィックス SMT 、 SMX 、 SURTD 、 SRT 、 SMTL 、 SCL 、 SMC 、 SRTL のある UPS モデルと、SRC2KUXI 、 SRC3KUXI 、および SRC3KUXIX709 のモデルを除く Smart-UPS モデル。



UPS 製品形式の詳細に関しては、[APC ウェブサイトのサポート技術情報で FA53387](#) の項目を参照してください。



PowerChute をインストールして Back-UPS デバイスを監視することは、サポートされていません。

以下のセクションも参照してください：[異なるバージョンおよびコンポーネントの互換性](#)。

システム、UPS、ケーブルの要件

コンピュータのシステム要件については、以下のセクションを参照してください。

- [インストールのシステム要件](#)
- [UPS 通信ケーブルの要件](#)



タイプ A の UPS には、コンセントグループを持つモデルがあります。

UPS が切替コンセントグループを持つ場合、デフォルトのコンセントグループが最初の切替コンセントグループになります。それ以外のメインコンセントグループを持つモデルの場合、デフォルトコンセントグループはメインコンセントグループになります。

アウトレットグループは、PowerChute エージェントの **コンセント設定画面** およびインストール後の初期設定ウィザードで変更できます。

インストールのシステム要件

PowerChute Business Edition と互換性のあるオペレーティングシステム、JRE、サービスパック、プロセッサに関する最新情報については、[APC ウェブサイトにある PowerChute Business Edition オペレーティングシステムとプロセッサの互換性チャート](#)の最新版を参照してください。



最新のオペレーティングシステム（Windows® 8 または 10 など）では、以下に示すハードウェア要件を満たすことが特に重要です。

PowerChute Business Edition をインストールするコンピュータは、64 ビットのオペレーティングシステムでなければならず、次のものがが必要です。

- アクティブな TCP / IP ネットワーク接続
- 512MB 以上の RAM
- Pentium® 4 1.3GHz 以上のプロセッサ

ポート要件

PowerChute Business Edition で使用するポートの詳細な情報に関しては、[APC ウェブサイトのサポート技術情報](#)で **FA53117** の項目を参照してください。

ブラウザ要件

サポートされているブラウザ：

- Microsoft Internet Explorer バージョン 11
- Mozilla Firefox バージョン 52+
- Google Chrome バージョン 62+
- Microsoft Edge

エージェント Web ユーザーインターフェイスを使用するには：

- ブラウザので JavaScript™ を有効にします。



注意： Windows Server 2008 では、Internet Explorer セキュリティ強化の構成（IEESC）がデフォルトで有効になっています。これは PowerChute を信頼済みサイトに追加するまで、すべての JavaScript をブロックします。

- ブラウザの設定で Cookie を有効にします。
- HTTPS を使用してエージェント Web インターフェイスにアクセスするには、ブラウザの設定で SSL 3.0 または TLS 1.2 以上を有効にします。

エージェントを表示すると、ブラウザでセキュリティ認証の信頼性がないことを示すエラーメッセージが表示されます。これを管理するには [PowerChute Business Edition エージェントインターフェイスへのアクセス](#)を参照してください。

UPS 通信ケーブルの要件

UPS に同梱されている通信ケーブルを使用して、UPS をサーバーに接続します。

- PowerChute エージェントは、UPS と PowerChute Agent を実行しているサーバーの通信ポートに接続する通信ケーブルを介して UPS と通信します。

- PowerChute は、UPS 本体にあるインターフェースに対し、USB またはシリアルのうちいずれか一種類の形式の接続のみでサーバーとの通信が可能です。注：シリアル-USB または USB-シリアルアダプターの使用はサポートされていません。
重要：UPS1 台に複数の通信ケーブル（シリアルケーブルや USB ケーブルなど）を使用してサーバを接続すると、予期しないシャットダウン動作が発生する可能性があります。
- UPS に同梱されている通信ケーブルの詳細については、[APC ウェブサイト](#)にある UPS の取扱説明書を参照するか、[製品センター](#)ページのケーブル情報を参照してください。その他の詳細に関しては、[APC ウェブサイト](#)のサポート技術情報で **FA53413** の項目を参照してください。

重要：サポートされていない UPS または不適切な UPS 通信ケーブルを使用して UPS とサーバーを接続すると、PowerChute Agent が UPS と通信できないため、PowerChute Agent のインストールを完了できないことがあります。



PowerChute のインストールでは、シンプルシグナリングケーブルで接続されたデバイスを検出できません。Interface Expander 2 カードまたは Share-UPS のシリアルポートに接続したコンピュータでは、インストール時に手動インストールを選択してください。

詳細については、[通信のヘルプ](#)、[UPS の自動検出および手動検出のトラブルシューティング](#)を参照してください。

注意：Interface Expander 2 カード（**AP9624**）または Share-UPS（**AP9207**）を使用しない限り、UPS1 台に対して保護できるコンピュータは PowerChute エージェントを実行している 1 台のみです。

サポートされる UPS 機器およびアクセサリ

PowerChute Business Edition エージェントは、シリアルまたは USB 接続を使用して通信するほとんどの Smart-UPS™ デバイス（5kva 以下）を含めて、ソフトウェアとともに出荷されたあらゆる UPS を管理する事が可能です。使用されるケーブルと付属品によっては、Smart と[シンプルシグナリング](#)の両方がサポートされています。以下のセクションも参照してください：[サポートされている UPS の種類](#)。

注意：コンセントグループを持つ UPS デバイスについては、PowerChute Agent ヘルプのシャットダウンの章の、[シャットダウン時にオフにする個々のコンセントグループの選択](#)を参照してください。シャットダウン時にコンセントグループがどのように機能するか詳しく説明しています。

PowerChute エージェントのインストール

以下のセクションを参照してください：

- [PowerChute Business Edition インストールの前に](#)
- [Windows でのインストール](#)
 - [Windows 上での PowerChute エージェント の起動と停止](#)
- [Linux でのインストール](#)
 - [Linux での PowerChute エージェントの起動と停止](#)
- [シングルシグナリング](#)

PowerChute Business Edition インストールの前に



インストールを開始する前に、オペレーティングシステムの日付と時刻が正確であることを確認してください。

インストールを実行する前に、インストール手順について次の項目に注意してください。

- [異なるバージョンおよびコンポーネントの互換性](#)
- [PowerChute Business Edition のアップグレード](#)
- [ユーザー名とパスワード要件](#)
- [IPv6 互換性](#)

異なるバージョンおよびコンポーネントの互換性

PowerChute Business Edition バージョン v10.0 以降（ v10.0+ ）には、PowerChute コンソールまたはサーバーがありません。PowerChute Business Edition バージョン v10.0 以降では、SNMP を使用して、PowerChute Business Edition コンソールおよび サーバによって以前に提供されたディスカバリ、監視、および 制御のために、選択したネットワーク管理システム（ NMS ）と統合します。

PowerChute Business Edition v10.0 + エージェントは、以前のバージョンの PowerChute のコンソールまたはサーバーでは監視できないため、コンソールとサーバーをアンインストールしてください。

PowerChute v10.0 以上は 64 ビット専用アプリケーションであり、32 ビットの OS にはインストールできません。

PowerChute Business Edition のアップグレード

アップグレードプロセスでは、既存の PowerChute バージョンはアンインストールされませんが、以前のバージョンより新しいバージョンがインストールされ、構成設定は保持されます。



PowerChute v10.0+ は 64 ビット専用アプリケーションであり、32 ビットの OS にはインストールできません。32 ビットのオペレーティングシステムをお持ちの場合は、v10.0+ にアップグレードできません。

アップグレードノート

- PowerChute Business Edition v10.0.x は、PowerChute v10.0 からのアップグレードのみをサポートしています。
- 詳細については、「[オペレーティングシステムと UPS デバイス](#)」を参照してください。
- アップグレード後、ブラウザのキャッシュをクリアしてから Agent Web インターフェイスにアクセスし、最新の変更を確認してください。
- 初期セットアップウィザードは、構成設定が引き継がれるため、アップグレード後には表示されません。

アップグレードが可能かどうかについては、APC ワールドワイドカスタマサポートにお問い合わせください (<https://www.apc.com/jp/ja/support/>)。



アップグレードが完了したら、設定が確実に引き継がれているか確認するため、設定を確認してください。

ユーザー名とパスワード要件

- ユーザー名の長さは 6—128 文字でなければなりません。
- パスワードは以下が必要です：
 - 最小 8 文字から最大 128 文字の長さ。
 - 1 つの大文字と小文字。
 - 1 つの数字または特殊文字。
- ユーザー名をパスワードの一部にすることはできません。

インストール後にユーザー名とパスワードをリセットすることは可能です。エージェント Web インターフェイスおよび [APC ウェブサイト](#) にある、PowerChute Business Edition Agent ユーザーガイドの [ユーザー名とパスワードのリセット](#) の項目を参照してください。

IPv6 互換性

IPv6 アドレスは、次のいずれかの形式にする必要があります。

IPv6 形式	説明
fe80:0000:0000:0000:0204:61ff:fe9d:f156	IPv6 の完全な形式
fe80:0:0:0:204:61ff:fe9d:f156	先頭のゼロを省略
fe80::204:61ff:fe9d:f156	IPv6 アドレスの複数のゼロを :: に省略した形式
fe80:0000:0000:0000:0204:61ff:254.157.241.86	末尾を IPv4 ドット区切り形式で表現
fe80:0:0:0:0204:61ff:254.157.241.86	先頭のゼロの省略、末尾を IPv4 のドット区切り形式で表現
fe80::204:61ff:254.157.241.86	複数のゼロの省略、末尾を IPv4 のドット区切り形式で表現
::1	Localhost
fe80::	リンクローカルプレフィックス
2001::	グローバルユニキャストプレフィックス

ノードの制限

PowerChute Business Edition バージョン v10.0 以降では、ネットワークにインストールできる PowerChute Business Edition エージェントの数に制限はありません。

Windows でのインストール

PowerChute Business Edition Microsoft® Windows™ にインストールには、次の手順で行ってください。

以下のセクションも参照してください：

- [Windows エージェントのサイレントインストール](#)
- [Windows Server 2012/2016/2019 Server Core : PowerChute のインストール/アンインストール](#)

注意：

PowerChute Business Edition をインストールする前に他の PowerChute を使用している場合にはアンインストールする必要があります。これらのアプリケーションには、PowerChute plus、PowerChute Personal Edition、および PowerChute Network Shutdown が含まれます。

PowerChute Business Edition エージェント を Windows にインストールする

PowerChute エージェントを UPS に接続された各コンピューターにインストールします。詳細については、「[UPS 通信ケーブルの要件](#)」を参照してください。

エージェントを Windows および Linux オペレーティングシステムにインストールすることもできます。以下を参照してください：[Linux でのインストール](#)。

インストールの実行可能ファイルをダウンロードし、ダブルクリックしてインストールを開始します。

次の手順に従います。

1. InstallShield セットアップランチャー (`pcbsetup.exe`) を実行します。ウィザードに従ってインストールを進めてください。「次へ」をクリックして続行します。
2. 使用許諾契約に同意します。
3. PowerChute エージェントのインストール先を選択します。
アップグレードインストールでは、インストールするフォルダー等を尋ねられることはありません。前のインストール先がデフォルトで使用されます。
4. 「UPS の通信ポートを自動検出しますか？」に対しては、はいをクリックし、接続されている UPS が自動的に検出されるようにする事をお勧めします。いいえを選択する場合は、次の [UPS の手動検出](#) を参照してください。



注意：

- UPS でシンプルシグナリングを使用する場合は、いいえをクリックして手動で UPS の検索を行います。詳細については、「[シンプルシグナリング](#)」を参照してください。
- アップグレードインストールの場合は、UPS の選択は求められません。初回インストール時に特定された UPS が使用されます。
- インストールプログラムがコンピューターに接続された UPS を検出できない場合は、手動で UPS モデルを選択するように求められます。次の [UPS の手動検出](#) を参照してください。

UPS の手動検出

- a. 手動で UPS を検出する場合は、リストから UPS モデルを選択するよう求められます。詳細については、「[サポートされている UPS の種類](#)」を参照してください。
- b. UPS が接続されている通信ポートを選択するよう求められます。わからない場合は、UPS とサーバーを接続するケーブルを確認してください。

以下を参照してください。[通信のヘルプ](#)、[UPS の自動検出および手動検出のトラブルシューティング](#)。

5. ユーザ名とパスワードを入力します。詳細については、「[ユーザー名とパスワード要件](#)」を参照してください。
6. PowerChute によって Windows ファイアウォールが検出された場合、Windows ファイアウォールの例外リストで自動的にエージェントサービスを有効にすることができます。これを可能にするには、**はい**をクリックしてください。

ネットワークに追加された新しい UPS ごとに、新しい UPS に接続されたコンピュータで手順 1 ~ 6 を繰り返します。



注： Windows マシンで、UPS と USB ケーブルで接続して UPS との通信が確立できなくなる場合があります。この場合は、APC UPS ドライバを再度インストールする必要があります。以下の手順に従って、APC UPS ドライバをインストールしてください。

1. Windows のコントロールパネルから [システムとメンテナンス]-[管理ツール]-[コンピュータの管理] を開きます。
2. コンピュータ管理画面から [システム ツール]-[デバイス マネージャ] の下にある "バッテリー" を選択します。ここに "APC UPS" または "APC Battery BackUP" というエントリがない場合は、以下のステップにしたがって APC UPS ドライバをインストールしてください。
3. "HID UPS Battery" を右クリックし "ドライバソフトウェアの更新" を選択してください。
4. ハードウェアの更新ウィザードが表示されましたら下記を選択ください。
 - a. "コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します" を選択してください。
 - b. "コンピュータ上のデバイスドライバの一覧から選択します" を選択してください。
 - c. 一覧から APC UPS または APC Battery BackUP を選択してください。

Windows エージェントのサイレントインストール

一般的な非サイレントインストールの場合、通常、インストール中にプロンプトに答える必要があります。サイレントインストールでは、設定が既に応答ファイルに定義されているため、入力を求めるプロンプトは表示されません。PowerChute の複数のコピーに同じ設定を適用する場合、設定ファイルを使用できます。詳細については、[PowerChute Business Edition ユーザーガイド](#)を参照してください。



アップグレードを行う場合は、[PowerChute Business Edition のアップグレード](#)の重要情報を参照してください。



注： ダウンロードを使用してインストールする場合は、pcbe.zip を解凍し、pcbesetup.exe ファイルを展開してから続行してください。

手順 1：サイレントインストールのアンサーファイルを作成する

1. 使用中のコンピュータから PowerChute エージェントをの全コンポーネントを削除します。
2. ディスク上にローカルフォルダー (C : \ agent など) を作成し、Windows \ agent フォルダのコンテンツを PowerChute プログラムからローカルフォルダーにコピーします。
3. Windows のスタートボタンを選択し、**ファイル名を指定して実行**を選択し、「cmd」と入力して、コマンドプロンプトを起動します。
4. UPS がコンピュータに接続されていることを確認します。
5. コマンドプロンプトに次のように入力します
`<agent path>pcbesetup.exe -r`
(例) C:\agent\pcbesetup.exe -r
-r は、インストール中に入力した内容を記録するものです。

インストール時に、PowerChute エージェントを自動的に UPS を検出するようにするオプションを選択します。これを選択すると、サイレントインストールの際に、UPS が別のポートに接続されていても、UPS が検出されるようになります。

6. インストール中の入力内容は、アンサーファイル `setup.iss` (\Windows フォルダ内) に記録されます。必要があれば、このファイルを検索してください。上記の手順 2 で作成したエージェントディレクトリにこのファイルをコピーします。

手順 2 : サイレントインストールを実行する

サイレントインストールは、前のセクションで作成したアンサーファイルを使用します。

1. (`setup.iss` ファイルを含む) エージェントフォルダ全体を、サイレントインストールが行われるコンピューターにコピーします。

あるいは代わりに、ネットワークドライブにディレクトリをコピーして、各インストールコンピュータからこのドライブへマッピングすることもできます。以下の手順 3 にあるマッピングされたドライブ W: の例を参照してください。

2. Windows のスタートボタンを選択し、ファイル名を指定して実行を選択し、「`cmd`」と入力して、コマンドプロンプトを起動します。
3. コマンドプロンプトで次のように入力します
`<agent path>pcbsetup.exe -s`
(例) `C:\agent\pcbsetup.exe -s`
(例) `W:\agent\pcbsetup.exe -s`
W はマップされたネットワークドライブです。

また、変数 `-m` を使って、結果を `status.mif` という SMS ファイルにログする事が可能です。
(例) `C:\agent\pcbsetup.exe -s -m`

サイレントインストールが完了したことを確認するには、PowerChute Agent にログインできるようになるまで、コマンドプロンプトウィンドウを開いたままにします。

4. コマンドプロンプトのウィンドウを閉じます。

Windows 上での PowerChute エージェント の起動と停止

Windows では、インストールが完了すると PowerChute Business Edition エージェントが自動的に開始します。OS が起動するたびに、エージェントは自動的に実行されます。

PowerChute Business Edition エージェントを意図的に停止させた後で手動で起動するには、Windows コントロールパネルの管理ツールの中の Windows のサービスを表示させます。APC PBE Agent を探します。

PowerChute エージェントもサービスで停止させることができます。

PowerChute Business Edition エージェントを Windows からアンインストールする

1. Windows のコントロールパネルで プログラムと機能を選択します。
2. プログラムのアンインストールまたは変更の一覧から、PowerChute Business Edition Agent を選びます。
3. アンインストールをクリックします。
4. アプリケーションを完全に削除するか問われたら [OK] を選択します。

Windows Server 2012/2016/2019 Server Core : PowerChute のインストール / アンインストール

PowerChute エージェントと Windows Server Core

PowerChute Agent は、Windows Server 2012 Server Core、2016 Server Core または 2019 Server Core (64 ビットオペレーティングシステム) にインストールが可能です。

インストール

Windows の Server Core 以外の場合、Club APC サイトから `pcbsetup.exe` をダウンロードします。Server Core マシン（2012、2016 または 2019）の一時ディレクトリに、ファイルをコピーします。

コマンドプロンプトウィンドウで一時ディレクトリに移動し、`pcbsetup.exe` を入力してから Enter キーを押してください。

例えば、
`cd \temp`
`pcbsetup.exe`

アンインストール

コマンドプロンプトウィンドウで、PowerChute インストールディレクトリに移動し、`UninstallAgent.bat` を実行します。

たとえば、
`cd "\Program Files (x86)\APC\PowerChute Business Edition"`
`UninstallAgent.bat`

Linux でのインストール

前提条件については、[PowerChute Business Edition インストールの前に、インストールのシステム要件](#)、および[PowerChute Business Edition のアップグレード](#)を参照してください。



お使いの Linux オペレーティングシステムがデフォルトでサポートされているブラウザ：を使用していない場合は、PowerChute Business Edition をインストールする前に、ブラウザを必要なバージョンのブラウザにアップグレードしてください。

PowerChute Business Edition と様々な Linux ディストリビューションとの互換性に関する最新情報については、最新版の [PowerChute Business Edition オペレーティングシステムとプロセッサの互換性チャート](#)を参照してください。



PowerChute Business Edition をインストールするには、Linux コンピュータの root 権限が必要です。

PowerChute Business Edition エージェント を Linux にインストールする

PowerChute エージェントを UPS に接続された各コンピューターにインストールします。詳細については、「[UPS 通信ケーブルの要件](#)」を参照してください。



お使いのシステムが、IPv6 をサポートしていて、IPv4 をサポートしていない場合、インストール中に表示される UPS ハードウェアの説明を読む必要があります。

1. [APC](#) ウェブサイトから Linux 用 PowerChute Business Edition のインストーラをダウンロードします。
2. Linux ディレクトリ `/Linux/` を開く
3. お使いのシステムに適したインストールパッケージを選択してください。

英語：`pcbeagent-10.X.X-301-EN.x86_64.tar.gz`

日本語：`pcbeagent-10.X.X-301-JP.x86_64.tar.gz`



重要 : PowerChute を日本語システムにインストールするには、システム変数 LANG と LC_ALL を設定する必要があります。

- a. 次のコマンド : `vi /etc/profile` を使用してプロファイルファイルを開きます。
- b. プロファイルファイルの最後に以下を追加します。

```
#Japanese
export LC_ALL=ja_JP.utf8
export LANG=ja_JP.utf8
export LANGUAGE=ja_JP.utf8

#English
export LC_ALL=en_US.utf8
export LANG=en_US.utf8
export LANGUAGE=en_US.utf8
```

- c. `"export LANG=C.utf8"` を含むプロファイルファイル内の行を削除します。
- d. ファイルを保存してシステムを再起動します。
- e. ロケールコマンドを実行することにより、システムのロケールが正常に変更されたことを確認します。

4. `tar` コマンドを使用して、ファイルの内容を抽出して解凍します。

```
tar -xzvf pbeagent-10.X.X-301-XX.x86_64.tar.gz
```

5. ルートユーザとしてログインしていない場合は、`sudo` を使用してインストーラを実行するか、または `su` コマンドを使用してルートユーザのコンテキストに切り替え、インストーラを実行する必要があります。

```
./install_pbeagent_linux.sh
```



ウェブからのダウンロード後に、実行権限の付与が必要になります。

```
chmod +x install_pbeagent_linux.sh
```

6. 使用許諾契約に同意します。
7. `Config.sh` スクリプトが自動的に実行されます。
 - ユーザ名とパスワードを入力します。詳細については、「[ユーザー名とパスワード要件](#)」を参照してください。
 - UPS モデルを選択します。詳細については、「[サポートされている UPS の種類](#)」を参照してください。
 - PowerChute を実行しているコンピュータを、UPS に接続するため使用するケーブルの種類とポートを選択します。[UPS 通信ケーブルの要件](#)、[シンプルシグナリング](#)および[通信のヘルプ](#)、[UPS の自動検出および手動検出のトラブルシューティング](#)を参照してください。



Red Hat Enterprise Linux (RHEL) バージョン 6.3 以前では、PowerChute Business Edition v10.0 + との USB 通信はサポートされていません。

PowerChute Business Edition v10.0+ は、Linux マシン上の[タイプ B](#) UPS 機器との USB 通信はサポートしていません。

- 要求されたすべての設定パラメータが提供されると、PowerChute Agent サービスが開始されます。

Linux での通信に関する問題解決の詳細に関しては、[APC ウェブサイト](#)のサポート技術情報で [FA53073](#) の項目を参照してください。

Linux での PowerChute エージェントの起動と停止

PowerChute Business Edition エージェントは、オペレーティングシステムの起動時に自動的に実行されます。エージェントを手動で起動するには、コマンドプロンプトで次のいずれかのコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/PBEAgent start
service pbeagent start
systemctl start PBEAgent
```

エージェントを手動で停止するには、次のように入力します。

```
/etc/init.d/PBEAgent stop
service pbeagent stop
systemctl stop PBEAgent
```

ファイアウォールの背後にある PowerChute Business Edition エージェントへのアクセス

エージェント Web ユーザーインターフェイスにリモートでアクセスするには、次のポートを使用します。

- HTTPS: 6547

Linux での PowerChute Business Edition エージェントのアンインストール

エージェントをアンインストールするには、rpm を消去するオプション (-e) を使用します。

```
rpm -e pbeagent
```

Linux 用のサンプルスクリプトの使用

デフォルトの default.sh ファイルは、<PowerChute フォルダ >/Agent/cmdfiles/ のインストールに含まれています。

このファイルには、Linux 上でコマンドファイルを実行するための基本情報があります。

無効化されたハードウェア アブストラクション レイヤ (HAL)

HAL ポリシーファイルは、hald-addon-hid-ups モジュールが PowerChute Agent の USB over UPS の制御と競合する可能性があるため、これを無効化するために Linux システムに自動的にインストールされます。

このポリシーファイルは、エージェントのアンインストール時に自動的に削除されます。

RPM パッケージの署名

PowerChute Business Edition の RPM パッケージは、GNU Privacy Guard (GPG) によって署名されています。この RPM パッケージの検証に使用できる公開鍵の詳細を以下に示します。

公開鍵のダウンロード

1. **APC** ウェブサイトから公開鍵をダウンロードします。
2. 次のコマンドを使用して、オペレーティングシステムに公開鍵をインポートします。

```
rpm --import /path/to/RPM-GPG-KEY-PCBE.txt
```

3. ダウンロードした公開鍵からフィンガープリントを取得するには、次のいずれかのコマンドを実行します。

```
gpg --quiet --with-fingerprint RPM-GPG-KEY-PCBE.txt
```

```
gpg --show-keys RPM-GPG-KEY-PCBE.txt
```

```
gpg RPM-GPG-KEY-PCBE.txt
```

注：正しいコマンドは、お使いの OS や OS のバージョンによって異なります。

このコマンドの出力：

```
pub    rsa4096 2017-12-06 [SC] [expires: 2022-12-05]
       D8D195FC872BE7B53D177E66B5A962ED7CF6D1FD
uid    APC by Schneider Electric (PowerChute Business Edition)
       <esupport@apc.com>
```

```
sub    rsa4096 2017-12-06 [E] [expires: 2022-12-05]
```

Where D8D195FC872BE7B53D177E66B5A962ED7CF6D1FD matches the fingerprint.

RPM パッケージの検証

1. RPM パッケージを確認するには次のコマンドを実行します。

```
rpm --checksig -v <filename>.rpm
```

For example:

```
rpm --checksig -v pbeagent-10.X.X-301-EN.x86_64.rpm
```

2. このコマンドの出力が、ダウンロードした公開鍵のフィンガープリントと一致することを確認します。

シンプルシグナリング

サポートされる UPS デバイスおよびアクセサリ

UPS Interface Expander 2 (AP9624) カードは、SmartSlot™ アクセサリスロットを備えた UPS に装着でき、追加用の 2 つのシリアルインタフェースポートを有しています。PowerChute Business Edition では Interface Expander 2 を使用することで、UPS 本体の 1 つのポートとこの 2 つの追加したポートのシンプルシグナルにより、停電時に最大 3 つの PowerChute Business Edition エージェントに対して適切なシステムシャットダウンを提供できます。

このガイドでは、Interface Expander 2 カードのみを使用したシンプルシグナリングについて詳しく説明します。UPS Interface Expander 1 (AP9607) や APC Share-UPS (AP9207) などの旧世代のアクセサリも、**タイプ B** UPS と PowerChute Business Edition を使用して、複数のサーバに対して正常なシステムシャットダウンを提供可能です。Share-UPS または Interface Expander 1 の動作の詳細な情報に関しては、[APC ウェブサイト](#)にある関連のユーザーガイドを参照してください。

注：

- SRC の型番プリフィクスを持つ**タイプ B** の UPS デバイスの中には、シンプルシグナリングをサポートしていないものがあります。例：SRC1KI、SRC2KI、SRC1KI-IN および SRC1KUXI を含む。
- プレフィックス SRTL を持つ UPS デバイスは、Interface Expander カードでのシンプルシグナリングをサポートしていません。

シンプルシグナリングケーブル

形式：	パーツ番号
DB9-DB9 接続	940-0020
タイプ A UPS	940-0128D
Interface Expander カード	940-0020

スマートシグナリングケーブル

形式：	パーツ番号
DB9-DB9 接続	940-0024
RJ45-DB9 接続	940-0625X または 940-1525X
USB 接続：	
タイプ A UPS	940-0117X
タイプ B UPS	940-0273X

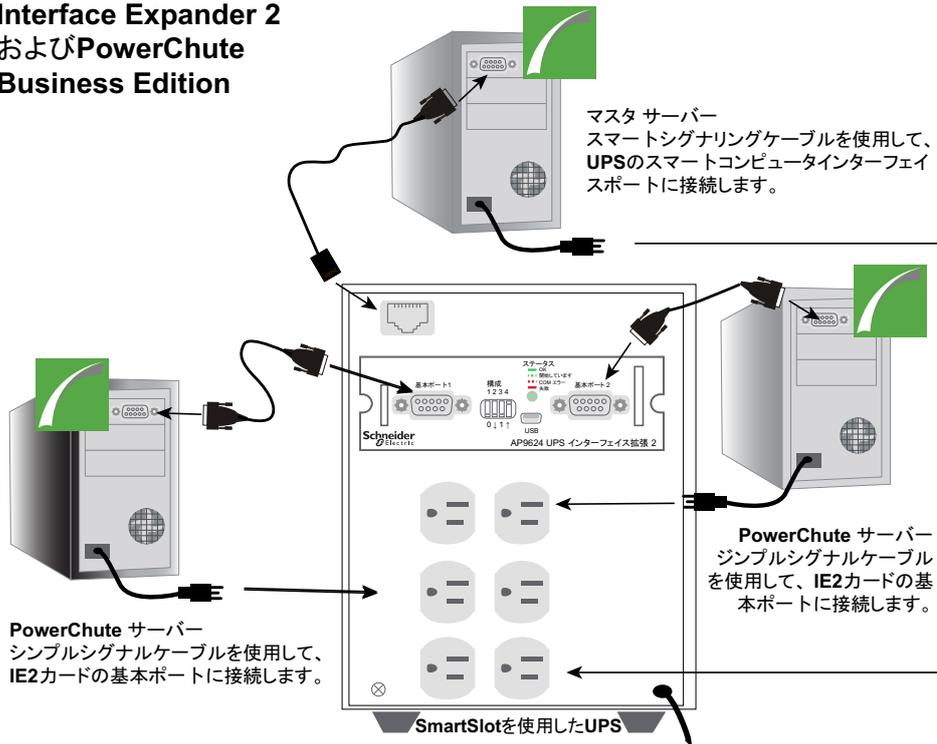


注：使用するスマート信号ケーブルは、UPS により変わります。UPS のボックスに同梱されているケーブルを使用します。PowerChute で使用している通信ケーブルの詳細については、ナレッジベースの記事 [FA53413](#) を参照してください。

サポートされる構成

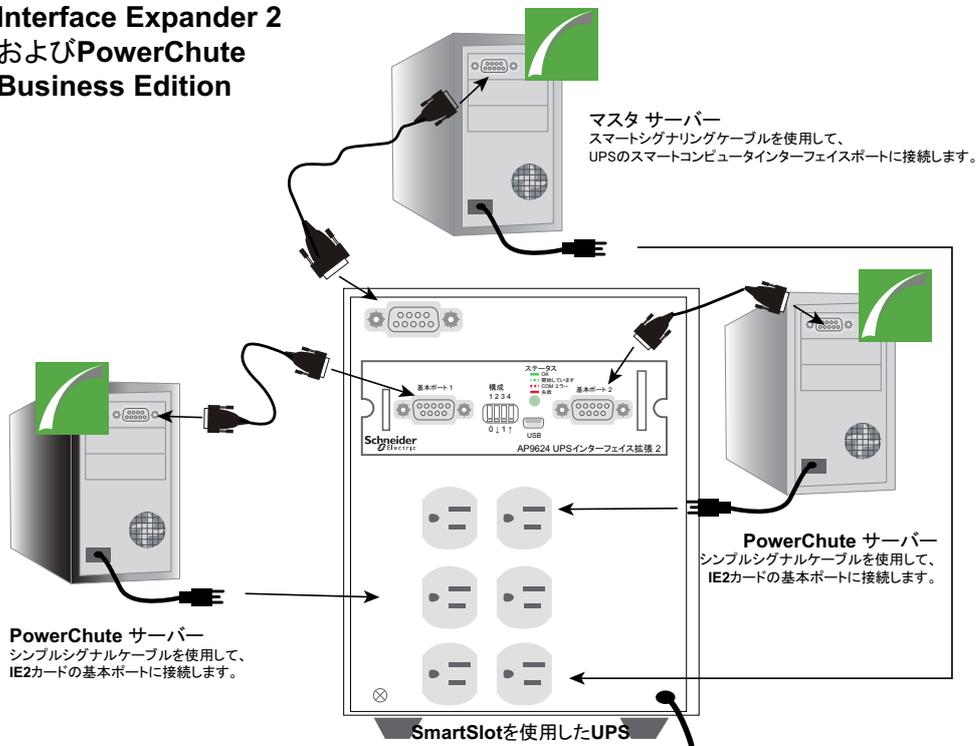
タイプ A UPS デバイス :

Interface Expander 2 およびPowerChute Business Edition



タイプ B UPS デバイス :

Interface Expander 2 およびPowerChute Business Edition



Interface Expander 2 (IE2) カードで PowerChute シンプルシグナリングを使用するには、[APC ウェブサイト](#)にある [ユーザーガイド](#) のインストールと設定の手順に従って、IE2 カードを UPS にインストールします。

- UPS の電源ケーブルを直接コンセントに接続してください。
- 各サーバの電源ケーブルを UPS の背面にあるコンセントに接続します。
- お使いの UPS モデル（上記の**シンプルシグナリングケーブル**参照）に付属の適切なケーブルを使用して、サーバ 1 台を直接 UPS のスマートコンピューター インターフェイス ポートへ接続してください。スマートポートに接続されているこのサーバが、**マスターサーバ**として定義されます。

注意：型番プリフィクスが SURTD または SRC の UPS モデルは、USB ポートがありません。この場合、シンプルシグナリング ケーブルを使用して、サーバを UPS のスマート コンピューター インターフェイス ポートに接続する必要があります。

- カードに付属のシンプルシグナリング ケーブルを使用して、残りの 2 台の**スレーブサーバ**を、IE2 カードに接続します。



注意：アクティブなシンプルシグナリング構成で通信ケーブルを切断すると、PowerChute は切断されたケーブルを検出せず、予期しないシャットダウン動作が発生します。シンプルなシグナリング中に通信ケーブルを切断することはサポートされていません。

IE2 カードをシンプルシグナリングで使用する際の有効な設定に関しては、**APC ウェブサイト**のサポート技術情報で **FA176957** の項目を参照してください。

シンプルシグナリングで PowerChute Business Edition をインストールする

UPS に接続されている各サーバには、PowerChute Business Edition エージェントがインストールされている必要があります。始める前に、**オペレーティングシステムと UPS デバイスとシステム、UPS 、ケーブルの要件**の詳細に関して**インストールの概要**を参照してください。

Windows でのインストールまたは **Linux** でのインストールのいずれかの最初の手順にしたがって、接続されている各サーバに PowerChute をインストールしてください。

Windows でのインストール中、UPS への接続形式を選択するよう求められます。

- **UPS ポートへ接続する：** スマートシグナルケーブルで、UPS のスマート通信ポートへ直接接続されている**マスターサーバ**に PowerChute をインストールする場合は、こちらを選択して下さい。
- **インターフェイス拡張ポート：** シンプルシグナリングケーブルで、IE2 の基本ポートへ接続されている**スレーブサーバ**へインストールする場合は、こちらを選択して下さい。
- **Share-UPS アドバンスポート：** このオプションは、スマートシグナリングケーブルで、Share-UPS のアドバンスポートへ接続されている**マスターサーバ**の場合に使用できます。
- **Share-UPS 基本ポート：** このオプションは、シンプルシグナリングケーブルで、Share-UPS の任意の基本ポートに接続されている**スレーブサーバ**の場合に使用できます。

Share-UPS または Interface Expander 1 の動作の詳細な情報に関しては、**APC ウェブサイト**にある関連のユーザーガイド、および同じくサポート技術情報で **FA53324** の項目を参照してください。

UPS への接続を選択し、オペレーティングシステムのインストールを完了します。

シャットダウン設定

シンプルシグナリング構成では、複数のサーバが 1 台の UPS でサポートされ、停電が発生した場合にはすべてのサーバが正常にシャットダウンされます。接続されているすべてのサーバは同時にシャットダウンされます。Interface Expander 2 カードを使用してシャットダウンを設定するには、PowerChute Business Edition を使用方法と、IE2 カードの物理的な DIP スイッチを使用する方法があります。



注： IE2 カードがタイマーモードのときは、PowerChute UI でシャットダウン設定を編集しないでください。PowerChute は、デフォルトモード（「UPS がバッテリー低下イベントを通知したとき」）に依存して、このモードで接続されているサーバをシャットダウンするからです。PowerChute のシャットダウン設定は、IE2 カードがコンファームモードになっている場合にのみ変更してください。IE2 の動作モードの詳細については、[APC ウェブサイトのナレッジベース記事 FA246601](#) を参照してください。

PowerChute Business Edition によるシャットダウン設定

この構成では、PowerChute Business Edition でシャットダウン設定を指定し、IE2 カードをコンファームモードにしています。



注意： この構成を使用している場合は、次のことを確認する必要があります。

- すべての PowerChute Agent のシャットダウン設定は同じです。
- 設定されているすべてのコマンドファイルは、実行に必要な時間と同じ時間を使用します。
- IE2 カードのディップスイッチは次のように設定します。
 - **タイプ A** UPS デバイスの場合は 0001
 - **タイプ B** UPS デバイスの場合は 0000

シンプルシグナリングでシャットダウン設定を構成する際の詳細については、**PowerChute Business Edition ユーザーガイド**を参照してください。

Interface Expander 2 ディップスイッチによるシャットダウン設定

この構成では、IE2 カードの DIP スイッチは、接続されているサーバをシャットダウンするタイミングを構成し、IE2 カードをタイマーモードにするために使用されます。PowerChute Business Edition エージェントは接続されている全てのサーバにインストールされており、シャットダウン設定は「デフォルト構成である UPS がバッテリー低下イベントを通知した場合」に設されているため、PowerChute はバッテリー低下イベントが発生した場合にサーバをシャットダウンします。

IE2 ディップスイッチは、シャットダウンモードを定義するために使用されます。

シャットダウンモード		スイッチ設定 (↓=0、↑=1)			
		1	2	3	4
コンファーム		0	0	0	*
ローバッテリー		0	0	1	該当なし
タイマー	2分	0	1	0	該当なし
	5分	0	1	1	該当なし
	10分	1	0	0	該当なし
	15分	1	0	1	該当なし
	30分	1	1	0	該当なし
	60分	1	1	1	該当なし
UPS ポート上のサーバー	確認を待つ	0	0	0	0
	確認されたとして扱う	0	0	0	1

IE2 カードを設定するための詳細な情報に関しては、いずれも [APC ウェブサイト](#)にある [インターフェイス拡張 2 ユーザーガイド](#)、および サポート技術情報の記事 [FA246601](#) を参照してください。

シンプルシグナリングとタイプ A UPS デバイスでのインストールと設定

マスターサーバーのシャットダウン設定にあるオペレーティングシステムがシャットダウンする時間フィールドには、大きな遅延値を設定してください。ここで大きな値を設定すると、オペレーティングシステムのシャットダウンに時間がかかります。

シンプルシグナルのクライアントを含むすべてのサーバーを PowerChute コンセントグループに接続します。こうすることで、サーバーがマスターサーバーのコンセントシーケンス画面に従ってシャットダウンする事を可能にします。

シンプルシグナリングおよびタイプ B UPS デバイスによるシャットダウン機能

Interface Expander 2 カードがシンプルクライアントにシャットダウンコマンドを発行すると、UPS の電源を切るコマンドも発行されます。正常なシャットダウンを確実にするために、この電源オフコマンドの遅延時間はオペレーティングシステムがシャットダウンされる時間設定、およびマスターサーバーのシャットダウン設定画面のランタイム制限でと等しくなるよう強制的に設定されます。

マスターサーバーのランタイム制限時は UPS の遅延時間を決定するため、適切な値に設定してください。詳細については、[APC ウェブサイト](#)にある FAQ の [FA335089](#) の記事をご覧ください。

PowerChute Business Edition エージェント インタフェースへのアクセス

エージェントに初めてアクセスすると、セキュリティ証明書を信頼できないことを示すエラーメッセージがブラウザに表示されます。

一部のブラウザでは、ボタンをクリックして証明書の信頼性を確認するメッセージボックスが表示されます。ボタンをクリックして、エラーメッセージが表示されないようにしてください。他のブラウザでは、<servername> を信頼できるサイトとして追加し、証明書を手動で追加する必要があります。

ブラウザに証明書をインストールする方法については、製品センター (<https://www.apc.com/jp/ja/faqs/FA53414/>) を参照してください。APC ウェブサイトのサポート技術情報項目 [FA53519](#) に、ブラウザに証明書を追加する情報が掲載されています。

ローカルおよびリモートアクセス

PowerChute Business Edition エージェントのユーザインターフェイスには、ローカルとリモートの2つの方法でアクセスできます。

local マシンの PowerChute Business Edition エージェントにアクセスするには、Windows の **スタート** ボタンを選び **PowerChute Business Edition > PowerChute Business Edition** を選びます。

PowerChute Agent にリモートアクセスするには、Web ブラウザに `servername` と `port` を入力します。

`https://servername:6547`

例えば、サーバー名が `COMP1` の場合 :

`https://COMP1:6547`

トラブルシューティング

ここでは、PowerChute Business Edition のインストール時に発生する可能性のある問題について説明します。

その他の項目に関しては**製品センター**で確認してください： (<https://www.apc.com/jp/ja/faqs/FA53414/>)

以下のセクションを参照してください：

- **PowerChute Business Edition のインストール中に発生するメッセージ**
- **Windows でアンインストール時に発生する可能性のある問題**
- **通信のヘルプ、UPS の自動検出および手動検出のトラブルシューティング**
- **Windows での UPS 通信の確認**
- **Windows で USB ケーブル接続なしでのインストール**
- **予期しないシャットダウンと通信の喪失**
- **スタンバイモードでエージェントが一時的に使用できない**
- **スタンバイは Windows でのスケジュールされたシャットダウンを延期**
- **インストール時に Bluetooth ポートがフリーズする**
- **エージェントのインストール時にエラーメッセージ "OpenService が失敗しました" が表示される**
- **オペレーティングシステムの日付と時刻を変更する際の問題**
- **インストールまたはアップグレード後の UPS の変更**
- **スケジュールされたシャットダウンの後に UPS の電源がオンにならない**

PowerChute Business Edition のインストール中に発生するメッセージ

PowerChute Business Edition エージェントのインストール中に以下のメッセージが表示されることがあります。

注意：

問題が解決しない場合は、**APC ワールドワイドカスタマサポート** (<https://www.apc.com/jp/ja/support/>) を参照してください。

メッセージ	説明
不明なプログラムがあなたのコンピュータへアクセスしようとしています。	このメッセージは Windows のセキュリティ機能であり、ユーザーアカウント制御 (UAC) が有効な場合に発生します。インストールを続行するには、 [許可] をクリックして下さい。
[Could not stop the UPS service. 再起動してからもう一度セットアップし直してください。]	セットアップは Windows 上のネイティブ UPS サービスを停止しませんでした。コンピュータを再起動してから、PowerChute エージェントを再インストールしてください。
< エージェント > サービスのインストール中にエラーが発生しました。再起動してからもう一度セットアップし直してください。	セットアップで PowerChute サービスがインストールされませんでした。既にインストールされている PowerChute ファイルが無いこと、およびコンピュータで使用している OS がサポートされていることを確認してください。インストールを再試行する前に、 互換性チャート を参照して、 <i>PowerChute Business Edition のオペレーティングシステムおよびプロセッサ互換性チャート</i> の最新版を確認してください。

メッセージ	説明
[Error <identification> on attempt to load dll: <DLL の識別>。]	<p>セットアップで識別された DLL ファイルが読み込まれませんでした。再インストールを行う前に、次のことを実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンピュータで使用している OS がサポートされているか確認してください。互換性チャートを参照して、PowerChute Business Edition のオペレーティングシステムおよびプロセッサ互換性チャートの最新版を確認してください。 • コンピュータがインストールのシステム要件に記載の要件を満たしているか確認してください。
必要なリソースを読み込めません。	<p>セットアップで DLL ファイル、ネイティブ InstallShield リソース、および PowerChute のインストールに必要なその他のリソースをロードできません。コンピュータに十分なメモリがあることを確認してから、もう一度インストール作業を行ってください。詳細については、「インストールのシステム要件」を参照してください。</p>
パスワードの長さは 8 ～ 128 文字でなければなりません。	<p>8 文字以上 128 文字以下のパスワードを使用してください。詳細については、「ユーザー名とパスワード要件」を参照してください。</p>
ユーザー名の長さは 6 ～ 128 文字でなければなりません。	<p>ユーザー名は 6 文字以上 128 文字以下でなければなりません。詳細については、「ユーザー名とパスワード要件」を参照してください。</p>
PowerChute Business Edition をインストールして実行するには管理者権限が必要です。いったんログオフしてから、管理者権限を持つアカウントを使ってセットアッププログラムを再実行してください。	<p>PowerChute をインストールする前に、コンピュータへの管理者権限が必要です。</p>
[Setup could not determine if the selected path is valid. ローカルハードドライブ上のディレクトリを選択してください。]	<p>PowerChute はローカルハードディスク以外の、ネットワークドライブなどのドライブにはインストールできません。</p>
セットアップでネイティブ UPS サービスを再起動できません。You must manually restart the service or reboot to enable power protection.] (セットアッププログラムが UPS サービスを再開できません。電源保護を有効にするには、サービスを手動で再開するかまたはコンピュータを再起動する必要があります。)	<p>Windows の UPS サービスが再開しません。たとえば、PowerChute Agent の新バージョンをインストールするために PowerChute Business Edition 旧バージョンをアンインストールした時に、サービスが停止しました。コンピュータを再起動するか、または手作業でサービスを再開してください。</p>
[The two passwords must match to proceed.] (両方のパスワードが一致していなければなりません。)	<p>Password フィールドおよび Confirm フィールドに入力したパスワードは、同一である必要があります。</p>
[続行するにはあなたの許可が必要です。]	<p>このメッセージは、Windows のセキュリティ機能です。続けるをクリックします。</p>
PowerChute コンソールとサーバは v10.0 で廃止されました。PowerChute v10.0 + エージェントは、以前のバージョンの PowerChute のコンソールまたはサーバでは監視できません。	<p>エージェントを v9.0.3 以降、または v9.1.1 以降のバージョンから v10.0+ リリースにアップグレードする場合、従来の PowerChute Console および Server はアンインストールされませんが、PowerChute v10.0 + Agent の監視には使用できなくなります。SNMP と選択した NMS を使用して、複数の PowerChute v10.0 + エージェントを検出、監視、および制御できます。詳細については、「PowerChute Business Edition のアップグレード」を参照してください。</p>

Linux のインストールに関する問題

メッセージ	説明
Linux で rpm を使用してインストールする場合、キーに関する警告が受信されます。	このエラーメッセージを回避するには、 APC ウェブサイト のサポート技術情報で FA53540 の項目を参照してください。また、このメッセージを無視しても、通常どおりインストールを続行できます。
エージェントのインストール中に USB ポートを使用して通信するオプションはありません。	Linux kernels には USB ケーブルが接続されていない場合にパニックが発生する既知の問題があります。PowerChute のインストールでカーネルがこれを解決するのに必要なパッチを持っているかどうか分からない場合で、USB ポートのオプションが表示されない場合は、カーネルにこの解決が成されているかどうかを OS 提供者に問い合わせてください。 USB オプションは、修正がカーネルに適用されているため、RHEL v6.4 以降および SUSE 11 SP2 以降で利用できます。 このパッチのコミット番号は 1a8e8fab790ea7af81b8f964fdec706ad1ec2271 です。 http://git.kernel.org を参照してください。

Windows でアンインストール時に発生する可能性のある問題

Windows から PowerChute Business Edition をアンインストールする時に、次の問題が発生する可能性があります。

- ネイティブ UPS サービスが再起動しないことがあります。エラーメッセージの説明を参照してください。**セットアップでネイティブ UPS サービスを再起動できません。You must manually restart the service or reboot to enable power protection.]**（セットアッププログラムが UPS サービスを再開できません。電源保護を有効にするには、サービスを手動で再開するかまたはコンピュータを再起動する必要があります。）
- PowerChute を Windows OS からアンインストールすると Windows の UPS サービスが復元されますが、自動開始するよう設定する必要があります。
- PowerChute Business Edition のアンインストール後、いくつかのファイルやフォルダは手動削除が必要な場合があります。インストールフォルダが存在する場合は、その内容を含めて削除します（既定のフォルダ \Program Files (x86)\APC\PowerChute Business Edition またはインストール時に指定したデフォルト以外のフォルダ）。PowerChute 製品として PowerChute Business Edition のみがインストールされている場合は、APC フォルダも削除します。
- PowerChute Business Edition エージェントのアンインストールを試みたときに次のメッセージが表示された場合は、エージェントはインストールされていないか応答していません。エージェントサービスの削除時にエラーが発生しました。セットアップ終了後に再起動して下さい。
- Windows 2003 Web Edition のみ、PowerChute Business Edition のアンインストール時にいくつかのファイルが削除されません。これらの残存ファイルは、ご使用のコンピュータシステムの動作には影響しません。

通信のヘルプ、UPS の自動検出および手動検出のトラブルシューティング

PowerChute Business Edition が UPS を自動的に検出しない場合、または UPS の手動検出に問題がある場合は、次のトラブルシューティングチェックリストを使用してください。

注意：

セットアップでは、シンプルシグナリングケーブルで接続されたデバイスを自動的に検出できません。したがって、セットアップ中に、UPS が Interface Expander 2 カードの基本ポートを介して接続されている場合は、手動検出を使用してポートと UPS のタイプを指定します。詳細については、「[シンプルシグナリング](#)」を参照してください。

重要：

- PowerChute Business Edition と互換性のある UPS モデルを使用していることを確認してください。サポートされる UPS 製品形式の詳細に関しては、[APC ウェブサイトのサポート技術情報で FA53387](#) の項目を参照してください。
- ターミナルエミュレータなどの別のサービスが、UPS が接続されている COM ポートを使用している場合は、そのサービスを停止するか UPS を別の COM ポートに接続します。自動検出の場合は、**実行検出**を使用してセットアッププログラムが UPS を再度検索するようにします。手動で UPS を検出するには、新しい COM ポートを指定します。
- APC PBE Agent サービスが実行されているか確認します。
- UPS の背面をチェックして、正しいケーブルを使用していること、また確実に接続されていることを確認してください。詳細については、「[UPS 通信ケーブルの要件](#)」を参照してください。変更を行った後、APC PBE Agent サービスを停止して再開します。
- PowerChute をインストールするサーバーには、UPS を接続する通信ケーブルが 1 つだけであることを確認してください。USB ケーブルとシリアル通信ケーブルを同時に使用して UPS をサーバに接続すると、間違った通信タイプがインストールされ、インストールが正常に行われなことがある場合があります。
- シリアル-USB または USB-シリアルアダプターを使用していないことを確認してください。
- USB ケーブルを使用している場合：
 - 通信ポートが USB に設定されているか確認します。（シリアルから USB 接続に変更するには、PowerChute Business Edition Agent を再インストールする必要があります。）
 - Windows のコントロールパネルで、**管理ツール > コンピューター管理 > HID** を選択し、USB 装置を確認してください。**HID**、または **HID** 下に American Power Conversion USB UPS ドライバーが表示されない場合は、お使いのコンピューターで USB ポートが有効となっているかを確認してください。代わりに USB ハブを使用している場合（推奨されません）、ハブに電力が供給されていることを確認し、ハブのマニュアルを参照してアダプタが必要かどうかを確認し、UPS への USB ケーブルがチェーンの最後のケーブル UPS から上流のすべての USB デバイスが通信していることを確認してください。
- 次のいずれかがインストールまたは接続されている場合は、その設定を確認してください。
 - Network Management Card は、設定がすべて完了して動作可能である必要があります。
 - PowerChute Business Edition で Interface Expander 2 カードをモニターしている場合は、（[シンプルシグナリングケーブルの一覧中の](#)）正しいケーブルが使用されている事を確認し、カードまたは機器のインストール時に「Simple signaling Accessory」を指定した事を確認してください。指定したアクセサリのタイプが不明な場合は、カードまたはデバイスを正しい設定で再取付してください。
- USB / シリアル接続の問題を確認するには、別のポートとケーブルを使用するか、ターミナルエミュレータを使用して接続を確認してください。詳細については、「[Windows での UPS 通信の確認](#)」を参照してください。

注意：

このセクションのトラブルシューティング方法で問題が解決しない場合は、**APC ワールドワイドカスタマサポート**（<https://www.apc.com/jp/ja/support/>）に連絡してください。

Windows での UPS 通信の確認

スマートシグナリング UPS と Windows オペレーティングシステムをサポートするコンピューターとの接続を確認するには、ターミナルエミュレーター プログラムを使用してください。

注意：現在、SURTD、SMX、および SMT デバイスの通信を確認する方法はありません。

次の手順では、**PuTTY** ターミナルエミュレータを使用して、シリアル通信を確認する方法について説明します。

1. 通信ポートを他のサービスが使用していないことを確認します。
2. **PuTTY** を開く
3. PuTTY の設定画面で、次を入力します：
 - a. **接続の種類**：シリアル
 - b. **シリアルライン**：UPS が接続されている通信ポートを指定します。
 - c. **速度**：2400 ビット / 秒
 - d. **[開く]** をクリックします。
4. 空白の端末画面が表示されたら、大文字の **Y** を入力します。
 - 画面に **[SM]** (Smart Mode) という文字が表示されたら、シリアル通信のリンクに問題はありません。
 - **SM** が表示されない場合は、大文字の **A** を入力します。画面に **[OK]** と表示された場合は、UPS は信号を受信できますが、送信はできません。考えられる問題の原因は、次のとおりです。
 - シリアルケーブルに問題がある可能性があります。シリアルケーブルを交換してください。
 - コンピュータのシリアルポートは、割り込みの競合やポートの誤動作のために信号を受信できない場合があります。他のコンピュータの使用を試してください。
 - UPS にはハードウェアに問題がある可能性があります。他の UPS を試してください。

注意：通信に関する問題解決の詳細に関しては、**APC ウェブサイト** のサポート技術情報で **FA53129** の項目を参照してください。問題が解決しない場合は、**APC ワールドワイドカスタマサポート** (<http://www.apc.com/support/>) を参照してください。

Windows で USB ケーブル接続なしでのインストール

Windows では、SMX および SMT 装置の場合、UPS に USB 通信ケーブルを接続しないで PowerChute エージェントをインストールするとその後で接続を確立することができなくなります。

コンピュータと UPS を USB 通信ケーブルで正しく接続してから、エージェントを再インストールしてください。

予期しないシャットダウンと通信の喪失

UPS と PowerChute Business Edition を実行しているサーバー間の通信が失われた場合、UPS がサーバー上で動作している PowerChute Agent と通信できないため、停電時に予期しないシャットダウンが発生することがあります。

スタンバイモードでエージェントが一時的に使用できない

コンピュータがスタンバイモードになると、PowerChute エージェントの Windows サービスは動作しなくなります。

スタンバイは Windows でのスケジュールされたシャットダウンを延期

シャットダウンがスケジュールされている時間に、Windows コンピュータがスタンバイになっている場合、スタンバイモードが終了した後にシャットダウンが開始されます。これは、シャットダウンが (シャットダウンスケジュール コマンドによって) スケジュールされた時間が経過した後も適用されます。

たとえば、シャットダウンが午後 7 時から午前 7 時に設定されていて、ご使用のコンピュータが午後 7 時にスタンバイモードになると、その時間にシャットダウンは実行されません。しかし、コンピュータが通常の動作を午後 9 時に再開すると、スタンバイモードが終了した時点でシャットダウンが開始します。定期シャットダウンを午後 7 時に開始するという通知が表示され、数分後にコンピュータがシャットダウンされます。コンピュータの電源は 12 時間後に再度オンになります。

インストール時に Bluetooth ポートがフリーズする

Bluetooth® ポートが有効な場合、UPS の自動検出中に PowerChute Business Edition エージェントのインストールは、ハングアップします。

エージェントをインストールする前に Bluetooth ポートを無効にするか、エージェントのインストール中に UPS タイプとポートを手動で選択してください。

エージェントのインストール時にエラーメッセージ "OpenService が失敗しました" が表示される

PowerChute のインストールをキャンセルすると、このエラーが表示される場合があります。このエラーが発生すると、PowerChute フォルダの一部は JRE フォルダのように消去されないままになる場合があります。問題なく PowerChute を再インストールすることができます。また、フォルダは手動で削除することができます。

オペレーティングシステムの日付と時刻を変更する際の問題

特定の PowerChute 機能は、オペレーティングシステムの時間設定を使用します。スケジュールされたシャットダウン、イベントログ、データログなどのコンポーネントは、時間設定が正しく機能している事に依存しています。PowerChute のインストール後に時刻や日付を変更することはできません。

インストールまたはアップグレード後の UPS の変更

PowerChute v10.0 + のインストール後または以前のバージョンからの PowerChute v10.0 へのアップグレード後に、使用される UPS の変更はサポートされていません。アップグレードインストール中に UPS を選択するよう求められていない場合は、元のインストール時に特定された UPS が使用されます。元のインストール時に PowerChute で設定されたものとは異なる UPS を使用するには、PowerChute をアンインストールしてから、再インストールして新しい UPS で設定する必要があります。

スケジュールされたシャットダウンの後に UPS の電源がオンにならない

UPS デバイス SMX1000 および SMX750 では、スケジュールされたシャットダウンの後に UPS の電源がオンにならない場合があります。

デバイスの電源をオンにするには、次の手順を実行してください。

1. LCD を使用して UPS の電源を切ります。
2. UPS プラグをソケットから取り外します。
3. UPS バッテリーを取り外します。

その後、前述の手順を逆に実行してデバイスを通常どおり使用してください。

1. UPS バッテリーを再接続します。
2. UPS プラグをソケットに挿入します。
3. LCD を使用して UPS の電源をオンにします。

Schneider Electric 社の APC ワールドワイドカスタマサポート

本製品および他の製品に関するカスタマサポートは、以下の方法で無償で提供されています。

- Schneider Electric Web サイトの APC にアクセスして、APC サポート技術情報の文書にアクセスし、カスタマーサポートリクエストを提出してください。
 - **www.apc.com**（本社）
Schneider Electric の Web サイトでお住まいの国の APC に接続してください – 各国 APC はカスタマーサポート情報を提供しています。
 - **www.apc.com/support/**
グローバルサポートの APC サポート技術情報検索ベース、および電子サポート
- Schneider Electric のカスタマーサポートセンターから、電話または E メールで APC にお問い合わせください。
 - ローカル、各国専用センター：問い合わせ先情報については **www.apc.com/support/contact** へアクセスしてください。

お住まいの地域のカスタマサポートについては、APC by Schneider Electric 製品を購入された APC by Schneider Electric 営業担当または販売店にお問い合わせください。

規格、仕様、設計が時々刻々と変化するため、本書に記載されている情報の確認をお願いします。

© 2022 Schneider Electric. All Rights Reserved. Schneider Electric、APC、およびPowerChuteは、Schneider Electric SE、その子会社および関連会社の商標および財産です。他のすべての商標の所有権は、それぞれの所有者に帰属します。